



一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)

シャンソンは語る それぞれの人生

サロン・あべの1月の出会い

平成23年1月15日(土) (サ

ロン・あべの) 1月の出会いは、

新春コンサート「シャンソンは

語るーそれぞれの人生」と題し

て、歌唱は山岸麻耶さん、ギタ

ーは本野陽さん、ベース児島さ

としさんをお迎えして、育徳コ

ミュニティーセンター・研修室

で開催しました。

・シャンソンとは

シャンソンは、フランス語の

演歌だと言われる。16世紀位に

フランスの王宮で吟遊詩人が詩

を歌って、その時々々のニュース

を歌っていたらしい。そういう

人達がルーツでシャンソンが始

まった。シャンソンには、いろ

いろな種類があるが、歌のメロ

ディーよりも歌詞でメッセー

ジを伝えるのがシャンソンである。

歌を聴いているとそれが一つの

物語であつたりする。人生の悲

しみや喜びを歌っているのが、

シャンソン。だからシャンソン

は、若い人が聴くよりもむしろ

お年をめした方、人生を豊かに

過ごしてこられた方が、聴かれ

るのが一番いいかと思う。

・シャンソン生の歌声と伴奏



1曲目は「時は過ぎてゆく」。

詩の内容は、時はたえず流れて過ぎていて、気がつくとき遅すぎることが多い。そのような内容を詩で歌っている。

2曲目が「私の孤独」。詩の内容は、長いこと一人ぼっちで苦しんでいて、すごく寂しい思

いをした。けれど、ある日自分のそばに影のようにひっそり寄り添う友達を発見するというものとは…という歌。

3曲目は「思い出のサントロベ」。詩の内容が一つの物語になっている。最初は、「お借りしていた白い別荘には今年はいけなくなりまして。ごめんなさい。」。なぜ行けなくなったのか、だんだん語られていく中でその理由が歌となっている。ちょっと怖い詩でもある。

4曲目は「ラ・モンターニュ」。曲の前に、山岸さんのご主人のお話があった。ご主人は生まれた所が長野県で非常に山が多く緑の美しい所。が、就職先がなく、みな都会に出て行き、おじいさんやおばあさんが残つてるところが多い。主人もそのひとりで大学を出て社会に出て行った。詩の内容は、同様に故郷の自然の豊かさや過疎化を織り込んだものとなっている。5曲目は、「子どもの頃」、6曲目は、「詩人の死んだ時」。

アンコールの7曲目は「さとうきび畑」。「ざわわ ざわわ」の風が吹く名曲で、参加者も「ざわわ ざわわ」と声をそ

ろえて歌いました。

シャンソンの歌を聴いた後、暫時休憩。その後、参加者の意見や感想を聴きました。

「シャンソンは昔からのファン、生で聴けて良かった。」

「ベースやギターも良かった。」

「歌詞の内容が良くわかった。」など。

山岸さんは、「ボイストレーニングをしている。今までいろんな歌を歌ってきた。歌を歌えることでコミュニケーションがと

れる歌の力に感動している。歌を歌う場所を提供していただき、聴いていただくのは

その方の時間をいただいて楽しく過ごせて

いることに感謝の気持ちがいっぱい。シャ

ンソンは息がながい。あせらないで人生の経験が歌に味を出していく。」と若々しい声でご自身の人生を語られました。

シャンソンの生の歌声と生伴奏でのミニコンサート。歌と共に、人の心に伝える人の積み重ねからにじみ出る奥深い言葉に感動した(サロン・あべの)1月の出会いです。

(参加者30名 山村貴司)

お知らせ

<サロン・あべの>3月の出会い

- 内容：「メルヘンの世界を楽しみませんか」
- お客さま：おはなしの会「クリーク」
- 日時：3月19日(土) 午後1時～4時
- 場所：育徳コミュニティーセンター、
2階・研修室
[大阪市阿倍野区阪南町5-15-28、
06-6621-1901]
- 会費：なし
- 問合せ先：TEL06-6691-1028
(冨田慶子)

美智子のこんな話

岸田美智子

「孤族」と障害者問題

最近、朝日新聞の紙面で「孤族の国」というシリーズが掲載されて話題をよんでいるようです。TVでも無縁社会というテーマでドキュメンタリーがありました。つい先日、60代のお嬢様だった姉妹がマンションの一室で餓死された事件が、載っていました。この姉妹の両親はマンション経営をしていて、不動産の相続を受け、この親の遺産でこの姉妹は生活されていたようです。このような恵まれた生活をされていたのですが、亡くなられた時は、冷蔵庫に食べ物が入って入っていない状態で、体重も30キロ近くまでにやせ細っていたそうです。この

姉妹はプライドが高く、周りに助けを求める勇気がなかったことが、一番の問題だったそうです。このような孤独死の問題は、高齢化社会の日本でこれからどんどん増えていきそうですし、若い世代にも広がっていく動きがあるようです。このような孤族の問題は、地域での繋がりが作りを見直していくきっかけになっていくと思えます。そしてこの問題は、障害者の自立運動の中で、重度障害者の自立生活はより多くの介助や支援を受けながら自立生活を実現されていくので、より豊かな自立生活になっていくという考え方につながっていくと思います。つまり、なんでもかんでも生活は、自分ひとりで行うことが、健常者社会の自立感だったと思うのですが、この考え方の限界が出てきているのではないのでしょうか？いまいまだ、健常者も障害者も自立生活について、もう一度捉え直していくべききっかけ作りの場をどんどん考えていくべきだと思います。そんな場から出てきた考え方や、制度が今後の社会にとって必要なものになってくるのではないのでしょうか？

「やすらぎのまち作りチーム」

各地域では「アクションプラン」という地域福祉活動がありますが、阿倍野区内でも4つのチームが活動をしています。その一つに「やすらぎのまちづくりチーム」があり、3つのサロン活動をしています。

もし、どこかに出かけたいなと思ったとき、思い出してください。

参加・見学は、いつでも誰でも自由です。

○「サロンひだまり」

↳ 絵本を読んでも

毎月第1火曜日、10時〜12時

↳ 体を動かしましょう

毎月第3火曜日、10時〜12時

場所〓大阪市阿倍野区播磨町交差点北東。

○喫茶サロン「6丁目のサロン」

毎月第1木曜と第3木曜日、10時〜12時

コーヒー、紅茶、お茶等、100円

場所〓大阪市阿倍野区阪南町6丁目

※問合せ先〓06-6691-11028(富田)

遺された 身体について

遺体とは、死の世界に吸い込まれていく人をしばらくの間、引き留めておく手綱（たづな）のようなものなのかもしれない。ただ、それはあくまで、しばらくの間引き留めておくということであって、内臓から始まっていくという腐敗を防ぐことはできない。通夜には一晩か二晩、亡くなった人と生きている私たちをつなぐものとして横たわっているが、手を離せばたちまち空の奥まで飛んでいく風船のように、ひとりたび別れを告げたなら、そのまま二度と戻ってくることはなく、また見ることもできなくなる。

遺体は、その人そのものではないが、その人の魂が宿っていた唯一の器（うつわ）であり、その器がなければ、その人は生きることができ

なかつたというほど、その人とは縁の深いものである。

また、遺体はその人がどのように死んでいったかが読み取れる謎としても残っている。遺された人びとは、遺体の顔をのぞき込み、その人がいかに死んでいったか、苦しんだのか、そうではなかつたのか、また、どのような思いで命を終えたのかを知ろうとする。

通夜の夜、父の遺体を前にして、あれこれとそんなことを考えるうちに、私はこれまで仕事の上で出会ってきた二種類の人々を思い出していた。

一つは、子どもを亡くした親のことである。私は難病児の親の会の研究で、多くの子どもを亡くした親たちに出会ってきた。白髪の下、深い皺に囲まれたもう二度と開かれることのない父の臉（まぶた）を見ていると、奇妙なことかもしれないが、子として親を見送ることができたというある種の安堵感があつた。

しかし、これが黒髪の、丸い頬がつやつやした肌でつつまれ、いまにもいたずらっぽく吹き出して笑いそうな幼い顔だったらどうだろう。あるいは、いまからが青春だという、はち切れ

そうな喜びを期待しているような赤い唇と一点

の曇りもない額をそこに見つけたなら、私は果たしてその前で自分の足で立っていられるだろうかと想像するのである。

そして自死で家族を失った人たちである。遺体が何かの事故や事件、あるいは自らの試みによつて正視できないほどに傷つけられた場合、そのとき家族は言葉では言えないほどの無惨な、しかもこれまで全く見たことも考えたこともない姿から、愛する人の最期の思いを読み取らなくてはならない。

亡くなった人と自分たちとを繋ぎ、死の谷を越える唯一の綱が遺体であり、その遺体を通してしか死者と語り合えないにもかかわらず、その遺された身体の姿が、安らかな最期であつたと信じた家族の思いを粉々に砕くものであつたのなら、それはどんなにか辛いことだろう。

愛する者との最後の対話が、もはや血も流れない、冷たく腐敗していくだけのタンパク質の塊（かたまり）を通してしか行われ得ないことを知ったとき、遺された身体に対する私たちの意識も変わるだろう。単なる忌むべきものから、遺された人々が死者へとつながる悲しくも尊いものとして扱われ始めるのだと思う。

（知）

サロン・あべの毎月の感謝

カンパ、ハガキ、お菓子、バザー用品等
ありがとうございました。

カスタネット、宇根山千恵子、大西平三、
小西京子、仲田孝史、畑井義明、
平岡太、舛岡千賀子、町野旬子、
保名、その他の方、(敬称略)



晴れのち晴れ

稲垣恵雄

■理容店

私はだいたい1ヵ月に1度、散髪に行くことにしている。外出する時は必ずヘルパーさんに付き添ってもらうが、理容店は家の近くなので電動車いすに乗って一人で行く。誰でも散髪をする時は専用の椅子に座るが、私は車いすに乗ったまましてもらうのである。

理容店のマスターは気さくで話好きな人なので、いつ行ってもいろんなことが聞けるので実に楽しい。そんな中でもマスターは大の阪神ファンのために野球のことは詳しく話してくれるので、いつのまにやらこちらまでタイガースファンになってしまった。

マスターは、また1日に30本は吸うというヘビースモーカーのために、休憩時間

はいつも店の隅の方でタバコを吸っていた。ところが昨年の10月からタバコはびつたとやめたという。理由をご自分のことや値上げになったことなど、いろいろあるらしい。

今更言うまでもないが、理容とは理髪と美容のことで整髪やひげそりをして頭や顔を

きちんとして整えることである。頭髪とはもともと元服や装着の時、頭髪を剪ったり結んだりして成人の髪型に整えることから始まったと言われている。なお装着とは主として平安時代に女子が成人して



初めて装をつける儀式のことで男子の元服にあたる、と辞書にある。

私はしばらく体調をくずしていたので散髪にも行かなかった。それだけに毛髪もかなりのびていたが、先日、久々に散髪してもらうと、とてもさっぱりと心地良い気分になった。



アメリカで風邪をひきました！

出来るだけ病院の世話にならずに済む様、歯は渡航前に家族で検診を受けてきましたが、熱が出るのは仕方ありません。

スキー旅行の帰りから、運転している主人が体調不良に。続いて私も熱が出て、日本から持っていた体温計で39度を超えました。まさか大人が。さあ、医者に行かねばなりません(とすぐ思うのも日本式だった様ですが……)

まずすることは計算です。

平熱が36度なのは摂氏(℃)表示。アメリカは華

氏(F)ですから体温の数字も変わります。39℃を換算すると……102・2度(F)です。薬の処方にも身長体重も聞かれるかも。150cm 45kgはヤードポンド法で4フィート11インチ&99ポンドです。普通にメートルが通じる国もたくさんあるのに、意外にアメリカは面倒くさいのです。

そして保険証を忘れずに。

アメリカ合衆国の保険制度はいろいろ日本と違うわけですが、今回の私たち家族の様に滞在予定半年、観光より長く永住でもない場合は(指定された保険に加入すること)もヴィザに滞在許可証の発行条件になります。なので、アメリカに着いて即日、必要書類は提出済み。引き替えに渡された保険証カードを頼りに、近所の医院を訪ねてみました。

受付に声をかけます。

住所は？電話は？お国は？あら日本人なら友達がいるわー、と必ず会話をしてくれようとするのはアメリカのいいところですが、熱がある時にはしんどいです。あれこれ書類を記入して受付で待って、診察。また待つて処方箋をもらって終わり。

そう、当日は支払いがありません。その人の



身長計ってアメリカの定番？
12月末の水族館、カズキ5.5ft(167cm)に伸びてます！



9月牧場にて。カズキ5.3ft(フィート)=162cm, コウジ4.5ft, サキ4.2ft

保険会社、契約種類によって額が変わるからでしょうか、請求書は後日郵便で送付され、小切手を送り返して支払います。

驚いたのは熱の下げ方で、冷たいシャワーを勧められましたー(子供なら氷水につけたりするとか)そういうば子供の予防接種の時も5種類のワクチンを同時に射られましたっけ。いろいろ常識が違つてびっくりです。

そして薬の強いこと。診察中に錠剤を1つ飲まされたのですが、処方箋をもらうまでの短い間にも、みるみる熱が下がるのです。効果抜群で嬉しいやら、不安になるやら。

そして車で薬局へ。また長々と書類を書かされ、主人と2人待たされ、「日本人かい、北京はいいところだよね」というお決まりのやりとりの末に薬をもらい、やっと帰宅出来ました。

つい高熱↓医者ーと思いましたが、日本から持っていったバファリン飲んで様子を見る手もあったのかも。処方された抗生剤はやはりとても良く効きましたが、副作用の食欲不振も激しくて、途中で止めてはイケナイという指示通り10日飲み続けて3kg程痩せました。

そして後に来た請求書にびっくり。2人あわせて100ドル超(10万円以上)??保険が効きませんか? どういうこと?

あちこち電話して訪問して判明したことは、提出した書類が誰かさんの机の上に置いたままになっていたらしいのです。それじゃあヴィザも無効? 不法滞在? すると受付けてくれた、お嬢さんが「大丈夫ですー9月に受け取りましたっけ証言しますー!」大変心強いのですが、もう2月。手続きの方をきちんとお願いいたします…。(結局、支払いは大幅ダウンで済みました)

〔熱冷ましな映画紹介〕

「秘密の花園」(1993年)

大人に内緒で、荒れ果てた庭を蘇らせる子供たち。あの名作の映画化です。

そして熱のある少年を氷風呂に入れる場面が。英国でも熱があるときは冷やす様です。





3月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「ウイズ東淀川」3月の出会い

日 時：3月13日（日）午後1時30分～4時30分
内 容：ダンデム自転車と私
ゲ ス ト：柏木佳子氏
場 所：NPO法人自由空間クラブ
大阪市東淀川区淡路2丁目
会 費：なし
連 絡 先：鈴木昭二 ☎06-6340-3082

■「サロン淀川」3月の出会い

日 時：3月20日（日）午後1時30分～4時
内 容：「ウサギとカメ」どちらが先に仕上がるか。
～毛糸で作るウサギ、5円玉手芸でカメを作り
ます～
ゲ ス ト：山田富夫さん（シルバーボランティア手作りボ
ランティアグループ）
場 所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町2-14-3
会 費：なし
問合せ先：淀川区社会福祉協議会（ボランティア・ビュー
ロー）
☎06-6394-2900

■「サロンいたみ」3月の出会いはお休みです。

■「サロンにしよど」3月の出会い

日 時：3月26日（土）
内 容：未定
会 費：未定
問合せ先：中本 ☎090-9864-9678

■「サロンにし」3月の出会い

日 時：3月12日（土）午後2時～4時
内 容：手話を楽しもう！！
（基礎編を楽しもう）
場 所：西区在宅サービスセンター（西区役所6階）
第1会議室
大阪市西区新町4-5-14、
06-6539-8075
会 費：なし
問合せ先：宮脇淳 ☎090-3949-6973

<サロン・あべの>Vol.296 発行：平成23年（2011年）2月19日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941
印 刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/「サロン・あべの」でも検索できます